

速報第2417号 H26.12.1発行 総務課扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	26年・四定 一般質問 11月27日	質 問 者	笹田 浩 議員 民主党・道民連合 (渡島総合振興局)
質 疑 ・ 質 問	答 弁	担当課		
<p>五 教育課題について</p> <p>(一) 学校給食について</p> <p>1 食物アレルギーに関する研修について 次に、学校給食についてであります。 食物アレルギーに関する研修について伺います。 平成24年12月に、東京都で食物アレルギーを有する児童が、学校給食後にアナフィラキシーの疑いにより亡くなるという痛ましい事故が発生するなど、児童・生徒の生命に関わる重大な給食事故や食中毒が依然後を絶たない状況にあります。こうしたことを受け、文科省が今年3月26日付けで通知した「今後の学校の学校給食におけるアレルギー対応について」のなかで教育委員会等における食物アレルギー対応として、「研修会等について、一定の質を確保しつつ、管理職や教諭、養護教諭、栄養教諭、調理員、そして、給食関係者など、職種に関わらず、全教職員がアレルギー対応について学ぶ機会を提供する研修会の充実や緊急時の対応として「エビペン」の法的解釈や取扱いについての研修」、更には教職員誰もが「エビペン」使用を含めた緊急時対応のための実践的な訓練などに取り組むことなど校内研修の充実の必要性が示されています。 道教委は、食物アレルギーに関する研修の充実についてどのように取り組んでいるのか伺います。</p> <p>2 学校給食調理員の食物アレルギー対応について 学校給食において、アレルギー対応食を適切に提供するためには、栄養教諭等が示した調理指示書のもと、実際に学校給食を作る調理員の役割が大変重要だと考えます。 アレルギー対応食を作るに当たって、学校給食調理員の具体的な役割はどのようになっているのか、また、アレルギー対応食の誤調理や誤配防止のためには、調理員の研修が重要であります。 道教委は調理員の研修機会の確保にどのように取り組んでいるのか伺います。</p> <p>(二) 学校現場の公務災害の防止について 次に公務災害の防止について伺います。 学校現場においては、学校用務員による、脚立や椅子などでの高所作業中の転落事故及び電動工具等機械作業中の切傷事故など、事故の大小にかかわらず全国的に公務災害が発生している実態があります。 道内においても学校用務員だけでなく教職員がこうした危険作業にかかわるなどした事故があると聞いています。 私としては、こういった事故は起こさないようにしていかなければならないと考えています。 北海道内における教職員によるこうした危険作業により公務災害とされた状況や、これまで、公務災害の防止についてどのように取り組んでいるのか伺います。</p> <p>(三) 災害発生時における学校体制の整備について 地震や風水害など自然災害によっては、広域に被害が及ぶことがあるため、災害時の学校の役割、これが重要であります。そのためには、道や市町村、学校が連携を密にすることが重要であると考えます。 本年9月には、札幌市をはじめ全道各地で大雨による被害が発生し、災害・防災体制を不安視する声も聞かれたところであります。</p>	<p>(教育長) 笹田議員のご質問にお答えします。 まず、食物アレルギーについてであります。学校において、アレルギー疾患のある児童生徒に適切に対応するためには、すべての教職員が、各自の立場に応じた具体的なアレルギー対応を身に付ける必要がございます。 このため、道教委では、校長や教諭等を対象とした研修、また、養護教諭や栄養教諭の研修において、緊急時の対応方法やエビペンの使用に係る内容を取り扱うとともに、本年8月には、教職員や市町村教委の職員等を対象にアレルギー対応に特化した研修会を開催し、エビペン使用の実践的訓練や、医師法との関連の説明なども行ったところでございます。 また、9月には、教育委員会や学校における具体的な対応策を掲載した「学校における食物アレルギー対応の進め方」を策定し、周知に努めております。 今後は、新たに、エビペン使用を含むアレルギー対応に関する研修資料を作成・配布し、「進め方」と併せて、その活用を促進し、各教育委員会や学校における研修が充実するよう、取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>(教育長) 次に、学校給食調理員の役割などについてであります。学校給食調理員には、事前に栄養教諭等と綿密な打合せを行い、協力して、作業工程表等を作成するとともに、原因食品の混入が起こらないよう、専用の調理器具等を使用したり、誤配が生じないように、個人容器に配食し、食札を貼るなど、慎重かつ的確な対応が求められます。 このため、道教委では、昨年度の「学校給食調理講習会」において、アレルギー疾患の現状や、学校給食調理員の役割などについて説明するとともに、今年度の「学校給食研究大会」において、学校給食調理員を対象とした分科会を新たに設置し、アレルギー対応食の調理上の留意点や、配膳の工夫などについて研究協議を行ったところでございます。 今後も、こうした研修機会を確保するとともに、内容の一層の充実に努め、学校給食調理員の専門性の一層の向上に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>(教育長) 次に、教職員の公務災害についてであります。平成25年度に教職員が高所での作業中や電動工具等の機械操作中の事故により公務災害と認定された件数は、28件あります。 こうした公務災害をなくしていくためには、職場環境の整備などとともに、日頃から、作業を行う教職員が、危険を予測し、十分な注意を払いながら事故を起こさないという意識を持って行動することも大切であります。 道教委では、職場環境の整備や安全衛生の確保、災害防止に関する工夫などについて、毎年、市町村教委や学校に対して注意喚起しているほか、校長会議等においても指導し、教職員の安全に対する意識の啓発を図っているところであり、今後とも、様々な機会をとらえ、公務災害の未然防止に努力してまいりたいと考えております。</p> <p>(教育長) 災害発生時における学校体制の整備についてであります。学校においては、災害の発生に備え、学校防災マニュアルや地域の防災計画に基づき、事前に、通報連絡や避難誘導、救護など役割分担を明確にし、学校用務員等も含めたすべての教職員が共通理解を深めるなど、万全の体制を整備する必要があります。 道教委では、これまで、教育委員会や学校に対し、学校防災マニュアルの教職員への周知徹底はもとよ</p>	<p>健康・体育課</p> <p>健康・体育課</p> <p>給与課</p> <p>参事（生徒指導・学校安全）</p>		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担当課
<p>このような災害の備えには、教員はもとより学校用務員等も含めたすべての教職員による学校体制の整備や日頃からの研修の充実が重要と考えられますが、道教委の考え方と今後の取組についてお伺いをいたします。</p>	<p>り、防災教育の優れた実践例等を掲載した「学校安全推進資料」等を活用した校内研修の充実について、指導助言するとともに、毎年、「防災教育研究フォーラム」等において、専門家による講義や演習の実施などの取組を行ってまいりました。</p> <p>今後は、こうした取組を一層充実するとともに、各学校における校内研修への支援に努めるなどして、学校における防災体制の整備に取り組んでまいる考えでございます。</p>	

--	--	--